

2008  
第7号

SAKURA NEWS  
2008.12.1

# さくら通信

## ■放射線科 石井清午医師

桜ヶ丘病院では和歌山県立医科大学放射線科の石井清午医師に週1度、読影をお願いしています。病気の早期発見、早期治療に欠かせない画像診断を専門医にお願いすることで、微妙な病変も見逃す事無く対処できています。画像診断の専門医はまだまだ少ないのですが県立医科大学放射線科にお願いし、地元有田で生まれ育った石井医師に来て頂いています。同医師の専門的な力を広く有田地域の医療向上に役立てるよう、当院としても積極的に体制作りを行っています。

●お問い合わせは下記までお願いいたします。

事務室 0737(83)0078、地域連携室 0737(83)0829



放射線科医師 石井 清午

## ■放射線科、撮影室リニューアル、X線撮影装置入れ替え

画像診断に欠かせない撮影機器及び撮影室をリニューアルいたしました。高齢者の方々にも優しい設計となっています。画像診断のためのソフトウェア(石井医師)のみならずハードウェアもリニューアルにより充実させました。

## ②インスリンについて

インスリンといえばパンチング&ベストです…

## ④放射線科石井医師

放射線科の専門医として生まれ育った有田の医療に役に立てればと思っています。

## 新入職員

看護師  
新館病棟、腎センター、本館病棟

## ⑤部署紹介

理事長室  
プロジェクトITチーム

## ⑥看護・介護症例発表会

最優秀賞 本館病棟 宮崎拓次  
努力賞 5名

## ⑦放射線科設備リニューアル

撮影室の改装  
X線撮影装置、新型導入



医療法人 千徳会

# 桜ヶ丘病院

# インスリンについて

皆さまご存知のようにインスリンと言えば  
バンチング&ベストです。



内科医師  
西山 稔

- 1921年 BantingとBestがイヌの膵島からホルモンを抽出、isuletinと命名する。
- 1922年 14歳の患者に投与。臨床応用までたった1年です。インスリンの基本単位も定義され、2kgの絶食ウサギの血糖を45mg/mlの低血糖にする量が1単位とされました。製剤によるばらつきが大きかったようです。この年insulinと命名され、製薬会社による大量生産も開始されました。
- 1923年 日本でも臨床応用が開始されました。85年前の医学のスピードには驚かされます。(自己注射の保険適応には10年かかりました。)
- 1925年 インスリン1単位=0.125mgと国際単位が決定されました。
- 1926年 インスリンの結晶化成功。
- 1935年 国産インスリンが発売されました。この頃のインスリンはブタ、ウシ由来でした。作用時間は現在の速効型とほぼ同じであり1日3~4回打ちでした。
- 1942年 魚類インスリン抽出(日本)。さすが魚食民族日本人。
- 1946年 クジラインスリン製造(大洋漁業)。グリーンピースに教えてあげたいです。この年、プロタミン添加のNPH(Neutral Protamine Hagedorn)製剤開発(販売は1950年)。
- 1952年 亜鉛添加によるレンテインスリン製剤。

NPH、レンテの2剤は作用時間が長い  
ため、1日1~2回打ちにすることができました。

後のDCCTの結果を考えると、適切な治療という面では後退ですが、当時のインスリン製剤の痛さ(酸性溶液)と針の太さを考えるとしかたのないことかもしれません。また、ブタの無晶性インスリン30%(早期の効果)、ウシの結晶型インスリン70%(後期の効果)の合剤であるラピタードインスリンも発売されました。この後しばらくの間新しいインスリンの開発はありませんでした。



